

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係 日米沖縄返還交渉/国会提出資料（第067回）（Ⅱ）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43677

(3) 防衛方



衆議院 西中 清議員要求資料

46. 11. 8

1 基地・施設別在沖米軍一覧表

2 在沖米軍兵員数

3 在沖米軍主要部隊の技能

4 沖縄の自衛隊配備計画

5 沖縄関係経費

6 復帰後の沖縄の防衛範囲

7 基地・施設別在沖米軍一覧表

基地・施設名は返還協定A表に準拠する。

番号	基地・施設名	所在(管理)部隊機関名等	
1	北部訓練場	(海兵隊)	
2	安波訓練場	.	
3	川田訓練場	.	
4	奥間レスト・センター	(陸軍)	
5	伊江島補助飛行場	第1962通信群の一部、第824戦闘支援群の一部	[空]
6	八重岳通信所	戦略通信コマンド沖總通信群の一部	[陸]
7	慶佐次通信所	沿岸警備隊極東支部の一部	
8	瀬嵩訓練場	(海兵隊)	
9	キャンプ・シュワブ	第9海兵連隊	[海兵]
10	辺野古弾薬庫	第137武器中隊	[陸]
11	キャンプ・ハンセン	第4及び第12海兵連隊	[海兵]
12	久志訓練場	(海兵隊)	
13	恩納通信所	第3偵察大隊	[海・海兵]
14	キャンプ・ハーディ	第1特殊部隊群の一部	[陸]
15	恩納サイト	第30防空砲兵旅団の一部	
16	屋嘉訓練場	(海兵隊)	
17	ギンバル訓練場	(海兵隊)	
18	屋嘉レスト・センター	(陸軍)	
19	金武レッド・ビーチ訓練場	(海軍)	
20	金武ブルー・ビーチ訓練場	(海兵隊)	

21	ボロー・ポイント射撃場	第1特殊部隊群の一部	[陸]
22	嘉手納弾薬庫地区	第2兵站コマンドの一部、第3海兵支援連隊の一部、第400弾薬整備中隊	[各軍]
23	知花サイト	第30防空砲兵旅団の一部	[陸]
24	石川陸軍補助施設	第1特殊部隊群の一部	,
25	読谷陸軍補助施設	第1特殊部隊群の一部	,
26	楚辺通信所	ハンザ海軍保全群	[海]
27	読谷補助飛行場	(空軍)	
28	天願棧橋	(海軍)	
29	キャンプ・コートニー	第3海兵両用戦部隊司令部、第3海兵師団司令部及び司令部大隊	[海兵]
30	天願通信所	戦略通信コマンド沖繩通信群の一部	[陸]
31	キャンプ・マクトリアス	スメドレー・D・バトラー海兵基地隊	[海兵]
32	キャンプ・シールズ	第30海軍建設連隊	[海]
33	キャンプ・ヘーグ	第3海兵支援連隊の一部	[海兵]
34	平良川通信所	第7心理戦群の一部	[陸]
35	波平陸軍補助施設	第2兵站コマンドの一部	,
36	トリー通信施設	戦略通信コマンド沖繩通信群の一部、第2兵站コマンドの一部	,
37	嘉手納飛行場	第1特殊部隊群、第313航空師団司令部、第824戦闘支援群、第18戦術戦闘航空団、第376戦略航空団、第1962通信群、第3972保全群	[陸・空]
38	嘉手納住宅地区	(空軍)	
39	砂辺倉庫	(空軍)	
40	砂辺陸軍補助施設	第30防空砲兵旅団の一部	[陸]
41	カンジ陸軍補助施設	陸軍医療センター予防医学研究所	,
42	コザ通信所	第1962通信群の一部	[空]
43	キャンプ染江	陸軍医療センター(陸軍病院)、第29陸軍音楽隊	[陸]

4.4	キャンプ瑞慶覧	琉球米陸軍司令部/フォートバクナー(臨時)、第30防空砲兵旅団司令部、第1憲兵群、第7心理戦群の一部、第2兵站コマンドの一部、第1特殊部隊群の一部、第3海兵支援連隊の一部	[陸が主]
4.5	瑞慶覧通信所	戦略通信コマンド沖繩通信群	[陸]
4.6	泡瀬通信施設	泡瀬海軍送信所、第1962通信群の一部	[海・空]
4.7	西原陸軍補助施設	第1特殊部隊群の一部	[陸]
4.8	ホワイト・ビーチ地区	第2兵站コマンドの一部、第30防空砲兵旅団の一部、琉球艦隊基地隊の一部	[陸・海]
4.9	泡瀬倉庫地区	第3海兵支援連隊の一部	[海兵]
5.0	久場崎学校地区	(陸軍)	
5.1	普天間飛行場	第2兵站コマンドの一部、戦略通信コマンド沖繩通信群の一部、普天間海兵航空基地隊、第3.6海兵航空群	[陸・海兵]
5.2	キャンプ・マーン	第2兵站コマンドの一部、医療センター獣医部	[陸]
5.3	キャンプ・ブーン	第2兵站コマンドの一部、第1憲兵群の一部	
5.4	牧港倉庫	(陸軍)	
5.5	牧港サービス事務所	(陸軍)	
5.6	牧港補給地区	第2兵站コマンド司令部、第7心理戦群本部	[陸]
5.7	牧港補給地区補助施設	第2兵站コマンドの一部、第7心理戦群の一部	[陸・海]
5.8	牧港調達事務所	米陸軍調達事務所	
5.9	浦添倉庫	(陸軍)	
6.0	工兵隊事務所	西太平洋工兵隊沖繩地区工兵隊	[陸]
6.1	牧港住宅地区	戦略通信コマンド沖繩通信群の一部	
6.2	那覇冷凍倉庫	(陸軍)	
6.3	ハーバービュークラブ	(陸軍)	
6.4	那覇港湾施設	第2兵站コマンドの一部	[陸]
6.5	那覇サービス・センター	(陸軍)	

66	那覇空軍・海軍補助施設	第623航空管制警戒中隊 { 第7陸隊哨戒部隊・台湾海峡哨戒部隊・第1艦隊航空団司令部及びそのき下部隊・琉球艦隊基地隊 の移転については不明 }	[空・海]
67	那覇サイト	第30防空砲兵旅団の一部	[陸]
68	知念第1サイト	・	・
69	知念第2サイト	・	・
70	新里通信所	(陸軍)	
71	知念補給地区	陸軍混成サービス群	[陸]
72	与座岳航空通信施設	第623航空管制警戒中隊の一部	[空]
73	与座岳サイト	第30防空砲兵旅団の一部	[陸]
74	与座岳陸軍補助施設	(陸軍)	
75	南部弾薬庫	第2兵站コマンドの一部	[陸・海]
76	陸軍貯油施設	(陸軍)	
77	鳥島射撃場	(空軍)	
78	出砂島射撃場	・	
79	久米島航空通信施設	第623航空管制警戒中隊の一部	[空]
80	久米島射撃場	(海軍)	
81	浮原島訓練場	(海兵隊)	
82	津堅島訓練場	・	
83	前島訓練場	(陸軍)	
84	黄尾射撃場	(海軍)	
85	赤尾射撃場	・	
86	宮古島ヴォルタック施設	(空軍)	
87	宮古島航空通信施設	第623航空管制警戒中隊の一部	[空]
88	沖大東島射撃場	(海軍)	

2 在沖繩米軍兵員數 (46年8月現在)

總數 約 50,500人

陸軍 15,000人

海軍 2,500人

海兵隊 19,000人

空軍 14,000人

ウ 在沖繩米軍主要部隊の機能

琉球米陸軍 各陸軍部隊の統率、三軍施設の維持、太平洋陸軍の補給支援、沖縄

の陸上防衛及び防空

第2兵站コマンド 東南アジア各地からの返送物資の受入れとその修復

第1特殊部隊群 ゲリラ戦、平定作戦、情報活動、対情報活動、民事活動及び心理作

戦の実施

フォートバクナー基地隊 陸軍司令部の事務処理、訓練及び兵站業務の実施

第30防空砲兵旅団 沖縄の防空

第7心理作戦群 西太平洋における各部隊の心理戦支援

戦略通信コマンド 国防通信システムの陸軍部門を担当

第18戦術戦闘航空団 配属された航空機と要員の即応体制を維持し、敵の部隊施設を

破壊するよう計画された戦闘及び戦術偵察任務の遂行

第824 戦闘支援群	各部隊に対する基地施設、装備、要員の提供等
第6135 航空基地群	ナハ基地の管理
第1962 通信群	沖縄の空軍通信網の維持
第376 戦略航空団	空中給油及び戦略偵察の実施
第603 軍事空輸支援中隊	沖縄を使用する軍用機に対する輸送サービスの提供
第6297 保安群	通信保安の実施
第7艦隊哨戒部隊	西太平洋における対潜作戦、船舶監視業務及び台風偵察業務の実施
第5艦隊混成飛行隊	第7艦隊の艦艇、航空機への空中目標の提供
ナハ海軍航空基地隊	ナハ海軍施設の維持、管理
スミスV-D・パトラ-基地隊	沖縄の海兵隊施設の維持、管理
普天間海兵航空施設隊	普天間飛行場の維持、管理及び航空管制業務の実施

沖繩の自衛隊配備計画

場 所	部 隊	人 員	機 能	主 要 装 備	配 備 予 定 時 期
ホイール-エリア	陸上自衛隊の第1混成団 の本部、普通科中隊、施設科 中隊等および飛行隊 (飛行隊の航空機は那覇航空基地 E使用)	約1100人	陸上警備 及び 民生協力	無反動砲及び迫撃砲約20門 クレーン等の施設器材約15両 トラック等 約230両 V-107輸送ヘリコプター 6機 HU-1H多用途ヘリコプター 2機 LR連絡偵察機 2機	返還当初
ホワイトビーチ	海上自衛隊の沖縄基地隊 (本部、掃海隊、那覇連絡所) 但し、那覇連絡所(人員2~3人) は、那覇港。	当初約200人 4次防未約300人	沿岸防備、掃海 及び民生協力	当初、掃海艇2隻、輸送艇、 支援船等6隻計8隻。 4次防未、掃海艇2隻、支援 船等8隻計10隻	返還日から 約3ヶ月後
那覇航空基地	海上自衛隊の沖縄航空隊 (のちに第5航空群に改編予定)	当初約500人 4次防未約800人	哨戒及び捜索・ 救難	当初 P-2J 対潜哨戒機6機 4次防12機	返還日から 6ヶ月以内
	航空自衛隊の南西航空混 成団の本部、航空隊、基地隊 十ヶ部隊司令部(含10中隊)および 航空警戒管制隊司令部	当初約1,400人 4次防未約2,400人	防空	F-104J 要撃戦闘機 25機 F-104DJ(訓練用) 3 T-33(訓練連絡用) 約10機 V-107 救難ヘリコプター 3 MU-2 救難連絡機 約5機	返還日から 約3ヶ月後
読谷、勝連、知念、与座	陸上自衛隊の高射特科群 (ホーク40中隊)	約700人 (任務引渡時)	防空	ホーク装備品	1973年7月1日 に任務引渡
恩納、知念	航空自衛隊の高射群 (ナイキ200中隊)	約500人 (同上)	防空	ナイキ装備品	同上
宮古、久米、与座、沖永良部	航空自衛隊の航空警戒管制隊 (レーダーサイト4ヶ所)	約1000人 (同上)	防空	レーダー器材	同上

5 沖縄関係経費

	47年度概算要求額	46年度予算額
陸上自衛隊	(5,619) 百万円 6,294	552 百万円
海上自衛隊	(1,801) 2,240	172
航空自衛隊	(6,635) 9,955	(1,133) 509
内部部局	73	26
計	(14,055) 18,562	(1,133) 1,259

(注) 1. ()内は、国庫債務負担行為の後年度負担額である。

2. 予算は基地別に積算していないので、機関別とした。

6 復帰後の沖縄の防衛範囲

1 陸上自衛隊

沖縄本島を含む南西諸島の島嶼

2 海上自衛隊

おおむね 沖縄本島を含む南西諸島の沿岸及びこれらを含む周辺海域

3 航空自衛隊

おおむね上記の地域及び海域の上空

取扱注意

沖縄国交に付了所管等提出の
資料について

46.11.29.
栄北一

11月29日所管等調査より、同管等国交に
提出した下記資料2巻を入手したものと存

じしす、在在等資料の提出について当管に
作業前の協議を申し渡した。所管等には首

指図、依頼の上、今後出産等に協議を申し
込みたい。

記

1. 11月16日付資料 (豊城別半一巻表、在在等
巻名、在在等半一巻表(為、所管等別巻、所管等
所管等別巻、等11項目)

2. 11月24日付資料 (在在等半一巻表、在在等
所管等)

須田氏

手配布表

11/29

大正昭和 (2部)

昭和

昭和

昭和 (在在等加巻)

昭和 (+1部)

昭和

昭和

昭和 (+1部)

昭和

以上配布料

衆議院沖縄返還協定特別委員会 } 要求資料
衆議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会

46. 11. 16
防 衛 庁

1	基地・施設別在沖縄米軍一覧表	1	頁
2	在沖縄米軍兵員数	5	
3	在沖縄米軍の主要装備	5	
4	米軍の防空識別圏と予想される自衛隊の防空識別圏	6	
5	自衛隊の沖縄配備計画	8	
6	自衛隊と米軍との分担区分、指揮、命令、連絡の系統	9	
7	沖縄関係市町村長等へ提出した防衛庁長官、事務次官の親筆のあて先及び内容の例	10	
8	沖縄における広報の実施状況	16	
9	防衛庁職員、自衛隊員の沖縄出張状況	18	
10	沖縄から自衛隊応募状況	19	
11	自衛隊の予定訓練計画と米軍との協定	20	

基地・施設別在沖繩米軍一覧表(46.11.15)
 基地・施設名は返還協定A表に準拠する。

番号	基地・施設名	所在(管理)部隊機関名等	
1	北部訓練場	(海兵隊)	
2	安波訓練場	"	
3	川田訓練場	"	
4	奥間レスト・センター	(陸軍)	
5	伊江島補助飛行場	第1962通信群の一部、第824戦闘支援群の一部	[空]
6	八重岳通信所	戦略通信コマンド沖繩通信群の一部	[陸]
7	慶佐次通信所	沿岸警備隊極東支部の一部	
8	濱嵩訓練場	(海兵隊)	
9	キャンプ・シュワブ	第9海兵連隊	[海兵]
10	辺野古弾薬庫	第137武器中隊	[陸]
11	キャンプ・ハンセン	第4及び第12海兵連隊	[海兵]
12	久志訓練場	(海兵隊)	
13	恩納通信所	第3偵察大隊	[海・海兵]
14	キャンプ・ハーデイ	第1特殊部隊群の一部	[陸]
15	恩納サイト	第30防空砲兵旅団の一部	"
16	屋嘉訓練場	(海兵隊)	
17	ギンバル訓練場	"	
18	屋嘉レスト・センター	(陸軍)	
19	金武レッド・ビーチ訓練場	(海軍)	
20	金武ブルー・ビーチ訓練場	(海兵隊)	

21	ボロー・ポイント射撃場	第1特殊部隊群の一部	[陸]
22	嘉手納弾薬庫地区	第2兵站コマンドの一部、第3海兵支援連隊の一部、第400弾薬整備中隊	[各軍]
23	知花サイト	第30防空砲兵旅団の一部	[陸]
24	石川陸軍補助施設	第1特殊部隊群の一部	"
25	読谷陸軍補助施設	第1特殊部隊群の一部	"
26	楚辺通信所	ハンザ海軍保全群	[海]
27	読谷補助飛行場	(空軍)	
28	天願棧橋	(海軍)	
29	キャンプ・コートニー	第3海兵両用戦部隊司令部、第3海兵師団司令部及び司令部大隊	[海兵]
30	天願通信所	戦略通信コマンド沖繩通信群の一部	[陸]
31	キャンプ・マクトリアス	スメドレー・D・バトラー海兵基地隊	[海兵]
32	キャンプ・シールズ	第30海軍建設連隊	[海]
33	キャンプ・ヘーグ	第30海兵支援連隊の一部	[海兵]
34	平良川通信所	第7心理戦群の一部	[陸]
35	波平陸軍補助施設	第2兵站コマンドの一部	"
36	トリー通信施設	戦略通信コマンド沖繩通信群の一部、第2兵站コマンドの一部	"
37	嘉手納飛行場	第1特殊部隊群、第313航空師団司令部、第824戦闘支援群、第18戦術戦闘航空団、 第376戦略航空団、第1963通信群、第6972保全群	[陸・空]
38	嘉手納住宅地区	(空軍)	
39	砂辺倉庫	"	
40	砂辺陸軍補助施設	第30防空砲兵旅団の一部	[陸]
41	カシジ陸軍補助施設	陸軍医療センター予防医学研究所	"
42	コザ通信所	第1962通信群の一部	[空]
43	キャンプ染江	陸軍医療センター(陸軍病院)、第29陸軍音楽隊	[陸]

4 4	キャンプ瑞慶覧	琉球米陸軍司令部／フォートバクナー（臨時）、第30防空砲兵旅団司令部、第1憲兵群、 第7心理戦群の一部、第2兵站コマンドの一部、第1特殊部隊群の一部、第3海兵支援連隊の一部	[陸が主]
4 5	瑞慶覧通信所	戦略通信コマンド沖繩通信群	[陸]
4 6	泡瀬通信施設	泡瀬海軍送信所、第1962通信群の一部	[海・空]
4 7	西原陸軍補助施設	第1特殊部隊群の一部	[陸]
4 8	ホワイト・ビーチ地区	第2兵站コマンドの一部、第30防空砲兵旅団の一部、琉球艦隊基地隊の一部	[陸・海]
4 9	泡瀬倉庫地区	第3海兵支援連隊の一部	[海兵]
5 0	久場崎学校地区	(陸軍)	
5 1	普天間飛行場	第2兵站コマンドの一部、戦略通信コマンド沖繩通信群の一部、普天間海兵航空基地隊、 第36海兵航空群	[陸・海兵]
5 2	キャンプ・マーシー	第2兵站コマンドの一部、医療センター獣医部	[陸]
5 3	キャンプ・ブーン	第2兵站コマンドの一部、第1憲兵群の一部	"
5 4	牧港倉庫	(陸軍)	
5 5	牧港サービス事務所	(陸軍)	
5 6	牧港補給地区	第2兵站コマンド司令部、第7心理戦群本部	[陸]
5 7	牧港補給地区補助施設	第2兵站コマンドの一部、第7心理戦群の一部	[陸・海]
5 8	牧港調達事務所	米陸軍調達事務所	"
5 9	蒲添倉庫	(陸軍)	
6 0	工兵隊事務所	西太平洋工兵隊沖繩地区工兵隊	[陸]
6 1	牧港住宅地区	戦略通信コマンド沖繩通信群の一部	"
6 2	那覇冷凍倉庫	(陸軍)	
6 3	ハーバービュークラブ	"	
6 4	那覇港湾施設	第2兵站コマンドの一部	[陸]
6 5	那覇サービス・センター	(陸軍)	

66	那覇空軍・海軍補助施設	第623航空管制警戒中隊 {第7艦隊哨戒部隊・台湾海峡哨戒部隊・第1艦隊航空団司令部及びそのき下部隊・琉球艦隊基地隊の移転については不明}	[空・海]
67	那覇サイト	第30防空砲兵旅団の一部	[陸]
68	知念第1サイト	"	"
69	知念第2サイト	"	"
70	新里通信所	(陸軍)	
71	知念補給地区	陸軍混成サービス群	[陸]
72	与座岳航空通信施設	第623航空管制警戒中隊の一部	[空]
73	与座岳サイト	第30防空砲兵旅団の一部	[陸]
74	与座岳陸軍補助施設	(陸軍)	
75	南部弾薬庫	第2兵站コマンドの一部	[陸・海]
76	陸軍貯油施設	(陸軍)	
77	鳥島射爆撃場	(空軍)	
78	出砂島射爆撃場	"	
79	久米島航空通信施設	第623航空管制警戒中隊の一部	[空]
80	久米島射爆撃場	(海軍)	
81	浮原島訓練場	(海兵隊)	
82	津堅島訓練場	"	
83	前島訓練場	(陸軍)	
84	黄尾嶼射爆撃場	(海軍)	
85	赤尾嶼射爆撃場	"	
86	宮古島ヴォルタック施設	(空軍)	
87	宮古島航空通信施設	第623航空管制警戒中隊の一部	[空]
88	沖大東島射爆撃場	(海軍)	

2 在沖繩米軍兵員数 (46年9月現在)

総数	約 44,500人
陸軍	12,000人
海軍	2,500人
海兵隊	18,000人
空軍	12,000人

3 在沖繩米軍の主要装備 (昭46.10月末)

在沖繩米軍が保有している主要装備、数量はおおむね次のとおりと推定される。

(1) 航空機

ア 空軍機 (第313航空師団及び第376戦略航空団) 約120機

F-4C	2 スコードロン	48機
F-105	1 スコードロン	24機
RF-4C	1 スコードロン	18機
KC-135	1 スコードロン	15機
SR-71	1 スコードロン	若干
EC-135		
その他ヘリコプターなど		若干

イ 海軍機 (空海兵隊機)

P-3B	1 スコードロン	9機
KC-130F	1 スコードロン	13機
その他ヘリコプターなど		約130機

(2) ミサイル

地对空ミサイル (陸重)

ホーク	1 個大隊 (4 個中隊)	24基
ナイキ・ハーキュリーズ	1 個大隊 (3 個中隊)	36基

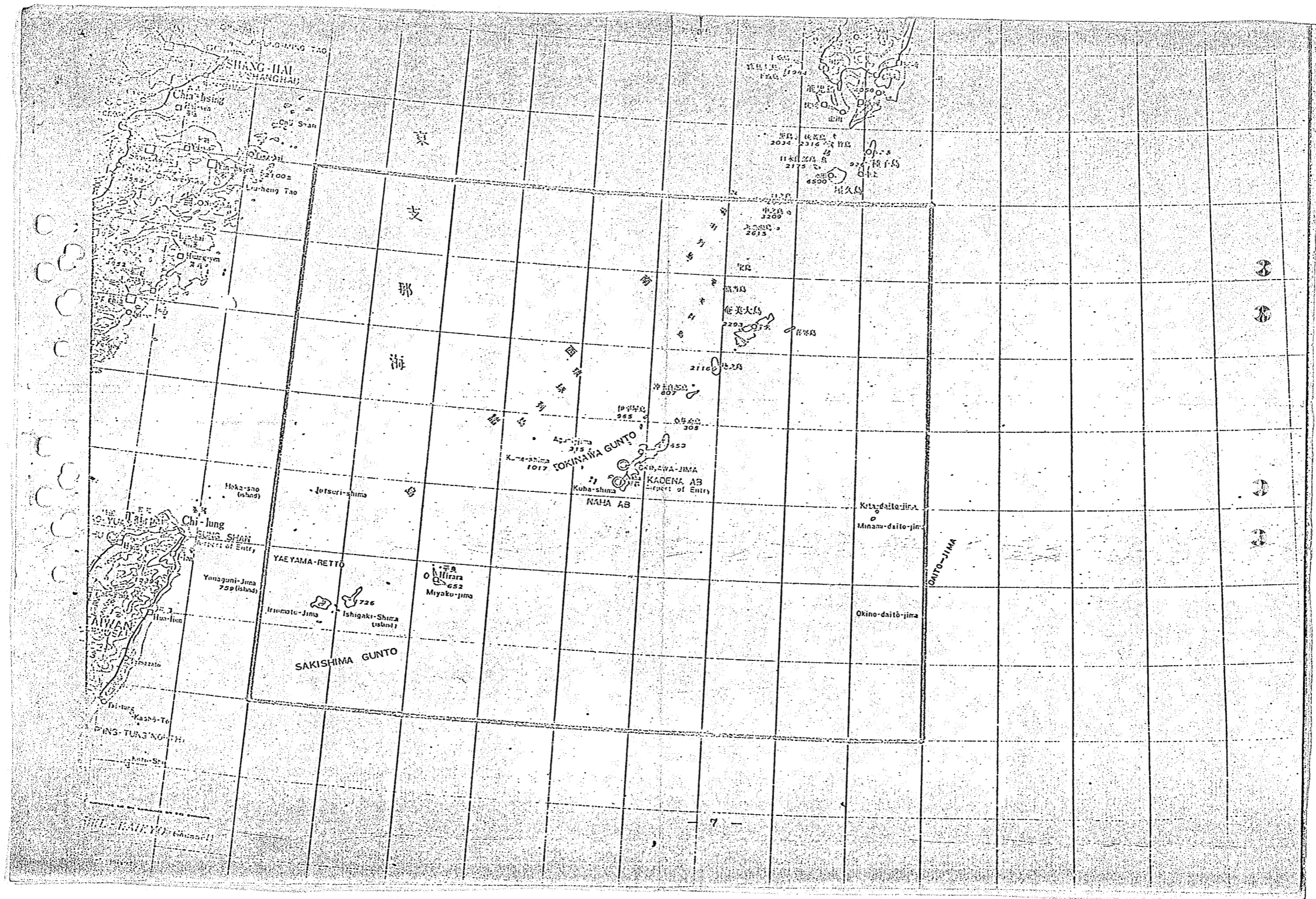
4 米軍の防空識別圏(変更を含む)と予想される自衛隊の防空識別圏

米軍の沖縄 A D I Z は次のとおりであると承知している。

北緯 30 度・東経 123 度、北緯 30 度・東経 132 度、北緯 23 度・東経 132 度、北緯 23 度・東経 123

度の諸点で囲まれる範囲内

沖縄復帰後の自衛隊の沖縄における A D I Z については、未だ成案を得ていない。



5 自衛隊の沖縄配備計画

	返還当初における配備計画	4次防原案の期末における配備計画案	配備予定場所
陸上自衛隊	陸上警備と民生協力のため普通科及び施設科からなる部隊、局地の航空輸送のため小規模のヘリコプター部隊並びに募集及び広報にあたる地方連絡部等人員約1,100名	普通科2個中隊、施設科1個中隊 飛行隊1個隊(輸送用ヘリコプター等10機)及びホーク群1個隊等人員約1,800名	那覇ホイール地区 ホーク障地 (読谷、勝連、知念、与座岳)
海上自衛隊	沿岸哨戒のための対潜哨戒機部隊(P-2J 6機)、港湾防備及び離島輸送のための小型艦艇部隊並びにこれらの支援にあたる基地部隊等人員約700名	基地隊(掃海艇2隻等)及び航空群(P-2J 12機)等人員約1,100名	ホワイトビーチ (艦艇関係) 那覇航空基地 (航空関係)
航空自衛隊	領空侵犯対処のための要撃戦闘機部隊(F-104J 25機)及びレーダー・サイト連絡員等約1,400名	航空隊(F-104J 25機、T-33 10機等)、警戒管制隊(4個サイト)及びナイキ群1個隊等人員約3,900名	那覇航空基地 ナイキ障地 (恩納、那覇、知念) サイト (宮古島、久米島、与座岳、沖永良部島)
	合計人員 約3,200名	合計人員 約6,800名程度	

6 自衛隊と米軍との分担区分、指揮、命令、連絡の系統

沖縄に配備する自衛隊の任務は、本土におけると同様、自衛隊法に基づいて直接・間接の侵略に対しわが国の防衛に当たるとともに、所要の民生協力を行なつたものであつて、日米安全保障条約に基づいて同地域に駐留することとなる米軍とはその任務を異にするので、米軍と自衛隊との任務分担区分というものはない。

また、指揮、命令系統についても自衛隊と米軍とは全く別個に独立している。

相互の連絡調整については、現地の指揮官の間で必要な事項について行なうこととなる。

7 沖縄関係市町村長等へ提出した防衛庁長官・事務次官の親書のあて先及び内容の例

親書提出先	施設関係調査先
(防衛庁長官名)	
琉球政府主席 屋良朝苗	
(防衛事務次官名)	
那覇市長 平良良松	那覇空港、那覇空軍・海軍補助施設、那覇ホイール地区、那覇陸軍補助施設(ナイキ)、
コザ市長 大山朝常	那覇市内地方連絡部設置適地
名護市長 渡具知裕徳	知花陸軍補助施設(ホーク)
宜野湾市長 崎間健一郎	名護市内地方連絡部出張所設置適地
平良市長 平良重信	海上自衛隊通信施設設置適地(同市所在の米軍基地内一部)
恩納村長 当山幸徳	宮古島航空通信施設(レーダー・サイト)
読谷村長 古堅宗光	恩納陸軍補助施設(ナイキ)
勝連村長 野原昌常	知花陸軍補助施設 } (ホーク) コザ市も関係
豊見城村長 又吉一郎	知花陸軍補助施設
知念村長 伊集盛郎	ホワイトビーチ港湾施設、西原第2陸軍補助施設(ホーク)
佐敷村長 渡名喜元尊	那覇空軍・海軍補助施設のうち瀬長島等の部分、那覇空港の一部
東風平村長 比屋根方清	知念第1陸軍補助施設(ホーク)
糸満町長 伊敷喜蔵	知念第2陸軍補助施設 } (ナイキ)
具志川村長 中村仁明	知念第2陸軍補助施設
仲里村長 平良盛忠	与座岳第2陸軍補助施設A地区(ホーク、本部)
上野村長 下地一弘	与座岳航空通信施設 } (レーダー・サイト)
	与座岳航空通信施設
	与座岳陸軍第1補助施設(ホーク)
	久米島航空通信施設 } (レーダー・サイト)
	久米島航空通信施設
	宮古島航空通信施設(レーダー・サイト)平良市も関係

謹啓

尊下にはますますご健勝のことと拝察いたします
私が昨秋尊下と親しく懇談申し上げて以来、沖縄返還交渉も順調に進み
このたびの協定調印によつて沖縄の本土復帰がその実現に大きく一歩近づ
きました。まことにご同慶の至りであります。

多年にわたつて終始たゆむことなく本土復帰を叫び続け、その実現のため
に全身全霊を捧げて来られた尊下の感慨はいかばかりかと存ぜられます。
昨秋、懇談の際にも申し述べましたように、政府は、本土復帰後の沖縄の
防衛について、本土におけると同様、自主防衛の原則に従つて措置する方
針であります。私は、わが国がこれまで平和を維持し、今日の繁栄を享受
している事実こそこのよりの政策の正しかつたことを実証するものである
と信じておりますが、それはまた沖縄の米軍基地の整理縮小のための最善
の方策でもあると考えます。

過ぐる大戦において沖縄全土は戦場となり、老幼婦女子を含む多数の県民

の生命が失われました。まことに痛恨の至りであります。県民の皆様の一
ちに、沖縄に自衛隊が配備されると聞いて、かつての悲惨な記憶を呼び起
こす方々があつたとしても当然でありましょう。しかし、自衛隊は、過去
の軍隊とは全く異なつた存在であります。それは国土の防衛に徹し、かつ
国会及び内閣の厳重な統制に服しております。また、その隊員は、すべて
自ら志願した、謙虚で純真な青年たちであります。これら隊員は、既に本
土において国民各層から広く敬愛されておりますが、私は沖縄においても
県民の皆様から支持と協力が得られるものと信じて疑いません。
自衛隊は、沖縄において防衛の任に当たるかたわら、民生に協力し、沖縄
の豊かな未来を切り開くための力となろうと決意しております。私どもと
しては県民の皆様のことまでのご体験を教訓として、部隊の正しい
育成に努める所存であります。尊下のご理解あるご指導を賜りたいと存
じます。

このたび自衛隊が配備される予定地の施設の調査のための当庁防衛審議官

安田寛を長とする調査団を派遣いたしました。関係の方々のご協力が得られれば幸いです。最後に尊下のご健康と県民の皆様のご繁栄をお祈りして私のご挨拶といたします。

敬具

昭和四十六年六月二十五日

国務大臣 中曾根 康 弘
防衛庁長官

琉球政府主席 屋 良 朝 苗 殿

拝啓

このたび日米両国政府間において沖縄返還協定が調印され、近く沖縄の施政権が日本に返還される運びとなりました。

日本国民の多年にわたる念願が実現されようとしている今日、

貴職を始め貴市の市民の皆様のご努力に対しあらためて敬意を表する次第であります。

とりわけて過ぐる大戦において無残に荒廃させられた那覇市の市民が再起を許さないかのように思われる種々の障害を克服し、今日の那覇市を再建したその不屈の精神に対しては何人も感嘆の辞を惜しまないものと存じます。

沖縄が復帰したあかつきには、現在施政権者としてアメリカが負っているこの地域の防衛責任は、当然わが国が第一義的に負うべきこととなり、自衛隊の部隊を各地に配備する必要が生じてまいります。

貴市関係では、やがて返還される那覇空港の一部及び那覇空軍・海軍補助

施設の一部及び那覇ホイールに所要の部隊を配属するとともに、自衛隊の隊員を志願する青年の便宜のため他の都道府県と同様自衛隊地方連絡部を設置することを考えております。

自衛隊は、ご承知のとおりかつての軍隊とは全く性格を異にし、国権の最高機関である国会によつて厳重に統制されており、またその隊員はすべてわが国の平和と独立を守り国の安全を保つため自ら志願してきた純真な青年たちであります。

私は貴市に配備される部隊の隊員が防衛の任に当たるかたわらさまざまに形で貴市の繁栄と民生に協力することによつて、市民の皆様と苦楽をともにしつつ貴市のために明るい未来を切り開く力となるものと信じております。どうかあなたの市民の仲間入りをさせてやっていただきたいと存じます。また、貴市の市民が部隊の育成のために暖かいご支援をご賜りますようお願い申し上げます。

このたび貴市に調査団を派遣し、施設に關し所要の調査をさせることとす

たしましたので 私どもの意図を十分ご理解の上 何分のご協力を得たい
と存じます

最後に貴市のご繁栄と市民の皆様のご発展をお祈りいたします

敬具

昭和四十六年六月二十五日

防衛事務次官 内 海 倫

那覇市長 平 良 松 殿

拝啓

このたび日米両国政府間において沖縄返還協定が調印され、近く沖縄の施政権が日本に返還される運びとなりました。まことにご同慶の至りであります。

施政権の返還に伴いこの地域の防衛責任もまた第一義的にわが国が負うこととなりますが、貴村に所在するレーダーサイト施設は、この地域の防空にとつて不可欠の機能をもつものであり、自衛隊がその任務を全うする上でぜひとも必要とする施設であります。

ご承知のとおり自衛隊は、旧軍とは全くその性格を異にし、隊員もまた「制服を着た市民」として地域社会にとけこんでおります。とりわけてレーダーサイト部隊は、本土においても離島その他の辺地に多く展開しており、そのいずれの地においても地元の方々から親しまれ、特に災害の際の救援については非常に感謝されております。宮古島に配備される隊員も、本土におけると同様皆様のお役に立つものと信じます。

貴職におかれては、宮古島に配備される部隊がわが国全般の防衛体制の中で欠くことができない一環であることをご理解の上、部隊の配備につき何分のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

このたび所要の調査のため調査団を派遣いたしますが、右のような私どもの趣意を十分ご勘察のうえご高配を賜りますようお願いするとともに、ご速慮ないご意見をうけたまわりたく存じます。

終りに貴村のご発展と村民の皆様の健康をお祈りいたします。敬具

昭和四十六年六月二十五日

防衛事務次官

内海

倫

上野村長 下地 一弘 殿

8 沖縄における広報の実施状況

(1) 一般広報

ア 広報映画の放映

防衛庁手持ちの広報映画をテレビ局から放映した。

イ 部隊見学に招待

西部方面隊等の部隊見学に沖縄の有識者を招待した。

ウ 記念式典に招待

自衛隊記念日式典に沖縄の有識者を招待した。

エ 写真パネルの展示

自衛隊の現状と災害派遣、民生協力の状態を紹介する写真パネルを作成し、現地団体主催の行事に展示するため沖縄へ送付した。

オ リーフレットの配布

自衛隊の現状と沖縄への自衛隊配備を紹介するリーフレットを作成し、一部沖縄へ送付した。

カ カレンダーの配布

自衛隊生活を取りあげた来年のカレンダーを作成し、一部沖縄へ送付した。

(2) 募集パンフレットの送付

沖縄・北方対策庁沖縄事務局からの依頼により同事務局での説明用資料として次のパンフレット等を送付した。

(46年6月)

自衛官への道	10部
防衛大学校志願案内	30部
航空学生志願案内	30部
婦人自衛官(WAC・看護)志願案内	30部
自衛隊生徒志願案内	30部
陸・海・空2士志願案内	40部
各志願票	上記それぞれにつき各20部

(3) 沖縄出身隊員の帰郷広報

北海道、離島又はへき地に勤務する曹士隊員を慰勞し、併せて広報の一助とするためこれら隊員を国費支弁により郷里に帰省させているが、沖縄出身隊員の帰郷広報実施状況は次のとおりである。

昭和43年度	24人
" 44 "	29人
" 45 "	26人
" 46 " (上半期)	16人

9 過去3年間の防衛庁職員、自衛隊員の沖縄出張状況(月別、人員、期間、目的)

年度	目的別	月別												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
四十四	研修	0	0	38	569	0	0	0	0	0	0	0	0	607
	視察・調査	0	12	0	11	6	4	2	0	5	2	1	9	52
	その他	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	計	0	12	38	581	6	4	2	0	5	2	1	9	660
四十五	研修	0	0	125	0	650	0	0	15	592	0	0	0	1,382
	視察・調査	0	12	11	0	40	0	22	13	5	2	7	24	136
	その他	0	0	1	2	0	0	0	22	0	2	0	4	31
	計	0	12	137	2	690	0	22	50	597	4	7	28	1,549
四十六	研修	0	41	423	335	0	0	-	-	-	-	-	-	799
	視察・調査	0	21	49	3	8	34	-	-	-	-	-	-	115
	その他	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	0
	計	0	62	472	338	8	34	-	-	-	-	-	-	914

注1 出張期間が2月以上にまたがる場合の月別区分は、出発日の属する月に計上した。

注2 出張期間は、出張目的により異なるがおおむね1週間以内である。

10 沖縄から自衛隊応募状況

昭和40年度	97名
" 41 "	71名
" 42 "	61名
" 43 "	70名
" 44 "	103名
" 45 "	138名

11 自衛隊の予定訓練計画と米軍との協定

(1) 沖縄復帰後における自衛隊の予定訓練計画

沖縄復帰後における自衛隊の訓練については、現段階においては、具体的な計画は固まっていないが、本土で現在実施している訓練に準じて実施されることとなろう。

復帰当初における展開部隊からみて、当初(47年度中)は、

陸上自衛隊：一般基礎訓練、各種射撃訓練、災害救助訓練、通信訓練等

海上自衛隊：対潜訓練、射撃訓練、掃海訓練、災害救助訓練等

航空自衛隊：航法訓練、射撃訓練、要撃戦闘訓練、高射訓練等

となろう。

(2) 米軍との協定

自衛隊の訓練について、現在、米軍との間に協定はない。復帰後の沖縄における自衛隊の訓練についても、協定を結ぶ計画はない。